

令和五年九月二十四日 愛礼の儀

神示

神示「真理」を家族で学び

家族一人一人が「人生」の支えに生きて

迎えた光寿の月間

今年の「心の姿」を 神に語る

自然と心に 感謝の思いがあふれ出てくる

神に「人生」を預け 「真理」を支えに「生きた」誠を

神魂にささげる

愛礼の真理と申す

信者に問う

愛礼の心はいかに――

この心の深まりが 迎える年の決意を固め

神の守りも大きい

毎年 迎える年の真実を 神は教える

信者は その真実「真理」を人生の支えに

「教え」に生きる決意を強くする

信者が語る感謝と報恩の心を 神は受け取る

信者は ますます「道」を学び 守り

「正道」を行く決意を強くする

年々 決意を固めて 迎える終日

信者の人生は 「開運」手にして 神魂と重なる

年頭の「祈願祭」で表された神示を軸に、1月から8月まで月々家族で教えを学び、実践に努めて、迎えた「光寿信者参拝時」。一年の歩みを振り返ると、神魂と出会えたからこそ味わえる喜びや、感謝の思いがあふれ出てくるでしょう。

神に心を預け、真理、教えに沿って生きようと努力したからこそ得られた、今の自分の姿。そのご守護に対して、感謝を「ささげる」という心の姿勢で御礼参拝しましょう。単に思いを伝えるのではなく、誠実に、真心込めて御礼するのが、「愛礼の心」です。神は、その真心を受け取ってください。

「愛礼の心」が深まるほど、ますます教えを学び、守り、開運をかなえる「正道」を歩む決意が強くなるものです。神の守りもさらに大きなものとなり、心が安定し、常に体調も優れ、仕事も順調に進むなど、形にまで表れてきます。年々確実に救いの道を歩み続け、人生の終日には開運を手にして、偉大な神魂のご守護の中で、永遠に続く「心の道」を完成できます。

その姿を自分のものとするためにも、ことし一年の感謝の真心を「御礼御祈願書」に記し、神総本部、偉光会館のご神前に提出しましょう。教主正使者供丸光先生が、一人一人の思いを確実に神魂へとつないでくださいます。その上で、神総本部真実の光会館光明殿、神魂の御前で、思いを直接語る儀式、「愛礼の儀」に参列し、感謝と報恩の思いを神魂にお届けしましょう。